

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 1 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20520066

研究課題名 (和文) 「天領」の学問・文化・思想構造に関する研究

研究課題名 (英文) Study on structure of learning, culture and thought of "the Shogunate government controlled area"

研究代表者 高橋 章則

(TAKAHASHI AKINORI)

東北大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号：10187990

研究分野：出版文化史

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：天領・代官・文化・地域・狂歌

1. 研究計画の概要

本研究は、2007年7月刊行の拙著『江戸の転勤族一代官所手代の世界』(平凡社)において明らかにした、江戸時代における「天領」(幕府の中・下級実務官僚である郡代・代官による直轄支配地、郡代領・代官領の総称)の学問と文化の構造とその展開についての学説を、多角的に再検証し、より確実なものにすることを目的とした研究である。

研究を進めるにあたっては、学問・思想形成の基礎をなす諸種「書物」の入手と享受の実態への検証を端緒にし、代官所とその周辺に住む広義の「学問者」の「知」の構造を思想史的に考察することを目的とする。

2. 研究の進捗状況

本研究が主たる課題としたのは、①代官所に関わる出版物・文献・史料の把握をめぐる基礎的調査であり、②研究成果の公表である。

史料の所在確認とその閲覧、さらには今後の調査の可能性の確認を目的として赴いた主な場所は、福島県伊達市・桑折町(陸奥代官所所在地)を中心とした福島県北部地域であり、南会津地域や中越地域にも調査地点を拡大した。そこでの調査を通じて、学問・思想形成の基礎をなす諸種「書物」の入手と享受の実態への検証の道筋を展望することが可能となった。あわせて、代官所とその周辺に住む広義の「学問者(文化人)」の「知」の多面的な構造を思想史的に考察する際の視点を「出版」行為に即して獲得することができた。

その出版分野のうちで本研究が重視するのは「狂歌」である。というのも、狂歌(特に19世紀の狂歌)は、江戸との繋がりを有する地域の知識人がこぞって制作したもの

であり、日・中の古典さらには地域的な景物、日常的の些事に至るテーマを幅広くかつ「典拠」をもとに詠んだ。その際の典拠となったのが江戸を中心に生産された「書物」であり、狂歌は書物に支えられ詠まれた。さらには浮世絵などの出版物も参照に供された。

代官所所在地に代表される地方の拠点地域にあつては、そうした多様な出版物を幅広く利用する文化人の存在が諸種の資料から裏付けられた。

こうした本課題の研究成果の一部は、出版をテーマとした「書物出版と社会変容」研究会をはじめとした国内の研究会のみならず海外でも、また隣接する研究領域である文学の分野の日本近世文学学会などで報告され、論文は国際浮世絵学会に機関誌などにも掲載された。また、研究成果の一端は『狂歌陸奥百歌撰』(東北文化資料叢書第五集)という資料集で発表された。

3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している。

そのように判断する理由は、上述したように、「出版」に着目した本研究課題においては当初から江戸期地域文化人の諸種出版物の享受の実態に注目してきたが、調査・研究の過程で「浮世絵」が射程に収められるようになり、それによって歌川広重に代表される著名絵師と地域文化人との交流などを明らかにすることが可能となったからである。

主たる研究分野「思想史」と文学との関係のみならず美術史との関連に踏み込むことができるようになったこと、狂歌を中心に地域文化の実相解明がなされたことなどにより、研究の達成度は高まったと考える。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 最終年度にあたる 2011 年度は、史料のデータベース化・公表を前提とし、これまで購入した設備備品の充実を図る。また、蓄積してきたデータの公表のための集中的管理方法を最新ソフト等を用いて構築したい。

(2) 史料調査を継続的に行う。その際の主要目的地は、福島県内の伊達市・桑折町・川俣町・福島県南会津郡田島町など福島県内の代官所所在地である。それに大分県日田市を加える。それは地域的な偏差を確認するためである。

そうした当該地の資料提供先に赴き、所蔵史料の閲覧を行うが、特に重視したいのが所蔵文献の総量の把握である。なかんづく「狂歌本」については、本研究を特色着けるものでもあり、地域文化の把握の基礎要件でもあるから、その把握に努めたい。

(3) なお、最終年度にあたる 2011 年度のみならず今後は、本課題が採用した研究方法の周知・公表の意味から、海外を含む複数地点で研究報告を行う予定である。

海外における発表予定機関は次のごとくである。

ライデン大学 (オランダ)、ローマ大学 (イタリア)

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 6 件)

- ① 高橋章則 『狂歌仮名手本忠臣蔵』と広重、浮世絵芸術 160、査読無、2010、P5-25
- ② 高橋章則、江戸狂歌—出版とスクラムを組む文芸—、東アジア出版文化研究ほしづくよ、査読無、2010、P327-339
- ③ 高橋章則 狂歌が結ぶ「知」と地域一名古屋・仙台—、書物・出版と社会変容 6、査読無、2009、P1-37
- ④ 高橋章則 「当座」という歴史空間—「狂歌」を歴史資源化する—、江戸文学 39、査読無、2008、P4-17

[学会発表] (計 6 件)

- ① 高橋章則、「四方側」の分裂—真顔没後に作成された三種の名録から導かれること—、「書物・出版と社会変容」研究会 11 月例会、2010 年 11 月 2 日、一橋大学
- ② 高橋章則、『狂歌仮名手本忠臣蔵』と広重、「書物・出版と社会変容」研究会 12 月例会、2009 年 12 月 5 日、一橋大学
- ③ 高橋章則、四方側分裂、日本近世文学会平成 21 年度秋季大会、2009 年 11 月 7 日、関西学院大学
- ④ 高橋章則、江戸狂歌—地域に拡大する出版、東アジア出版文化研究討論会、2009 年 10 月 10 日、延世大学、ソウル

⑤ 高橋章則、オランダにおける日本研究の現況と資料調査の報告、日本思想史研究会 6 月例会、2009 年 6 月 27 日、仙台

⑥ 高橋章則、狂歌が結ぶ「知」と地域一名古屋・仙台—、「書物・出版と社会変容」研究会 11 月例会、2008 年 11 月 1 日、愛知県西尾市 岩瀬文庫

[図書] (計 2 件)

① 高橋章則、狂歌陸奥百歌撰、東北文化資料叢書第 5 集、2010、90P

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

URL:<http://ir.library.tohoku.ac.jp/re/>